

一般社団法人 日本原子力学会 標準委員会
第 51 回 原子燃料サイクル専門部会 議事録

1. 日時 2012 年 5 月 29 日 (火) 13:30～15:40
2. 場所 5 東洋海事ビル会議室 D
3. 出席者 (順不同, 敬称略) (開始時)
(出席委員) 河西 (副部会長), 加藤 (幹事), 天野, 内山, 浦上, 大久保, 小畑, 金木, 木倉, 坂下,
仙波, 中島, 平井, 丸岡, 藤田, 柳原, 山本 (17 名)
(代理出席委員) 武部 (/高橋代理), 井上 (国土交通省 海事局/重入代
理), 吉原 (原技協/新堀代理) (3 名)
(委員候補) 大上 圭 (原子力安全・保安院) (1 名)
(欠席委員) 有富 (部会長), 仲神, 深澤, 川上 (4 名)
(説明者) 中居 (LLW 処分安全評価分科会委員)
高瀬 (LLW 処分安全評価分科会委員)
溝渕 (輸送容器分科会 常時参加者) (3 名)
(オブザーバ) 池田, 安田, 関口, 遠藤 (4 名)
(事務局) 都筑

4. 配付資料

- FTC51-1 第 50 回原子燃料サイクル専門部会議事録 (案)
- FTC51-2-1 人事について (専門部会)
- FTC51-2-2 人事について (分科会)
- FTC51-3-1 「浅地中ピット処分の安全評価手法」 書面投票結果
- FTC51-3-2 『浅地中ピット処分の安全評価手法』 (案) に対するコメント対応状況
- FTC51-3-3 浅地中ピット処分の安全評価手法について (概要版)
- FTC51-3-4 『浅地中ピット処分の安全評価手法』 (案) のコメント対応版
- FTC51-3-5 安全評価手法標準の策定 (改定を含む) 方針について
- FTC51-4 福島を除染で発生する除去土壌の仮置場の安全確保について
〔原子力安全調査専門委員会 クリーンアップ分科会活動報告〕
- FTC51-5 AESJ-SC-F006:201* 使用済燃料・混合酸化物新燃料・高レベル放射性廃棄物輸送容器の
安全設計及び検査基準:201* 標準委員会 再書面投票コメント対応状況
- FTC51-6 原子燃料サイクル専門部会 分科会活動状況

参考資料

- FTC51-参考 1 原子燃料サイクル専門部会委員名簿
- FTC51-参考 2 標準委員会の活動状況

5. 議事内容

(1) 出席者の確認

開始時、25名の委員のうち、代理委員を含め21名の出席があり、成立に必要な委員数(17名)を満足している旨が事務局から報告された。

(2) 前回議事録の確認

事務局から、前回議事録(案)について説明があり、前回議事録(案)は承認された。

(3) 人事について(専門部会人事, 分科会)

事務局から、FTC51-2-1(専門部会), FTC50-2-2(分科会)に基づき、専門部会, 分科会の人事について以下の通り紹介を行った。

1) 専門部会

①委員の退任(報告事項)

川村 竜児(原子力安全・保安院)

長崎 晋也(東京大学)

②新委員の選任(決議事項)

大上 圭(原子力安全・保安院)

審議の結果、大上氏の選任が決議された。

③委員の再任

河西 基(一般財団法人 電力中央研究所)

中島 健(京都大学)

内山 軍蔵((独)日本原子力研究開発機構)

加藤 和之(日本原燃(株))

金木 宏明(日揮(株))

深澤 哲生(日立GEニュークリア・エナジー(株))

2) 分科会

①委員の退任(報告事項)

LLW 廃棄体等製作・管理分科会

水越 清治(富士電機システムズ(株))

②委員の承認【承認事項】

LLW 廃棄体等製作・管理分科会

横田 修一(富士電機(株))

③常時参加者登録【承認事項】

LLW 廃棄体等製作・管理分科会

上西 修司(東京電力(株))

井上 亮((独)原子力安全基盤機構)

(4) 【報告】原子燃料サイクル専門部会書面投票結果「浅地中ピット処分の安全評価手法」

事務局より、FTC51-3-1に基づき「浅地中ピット処分の安全評価手法」の原子燃料サイクル専門部会書面投票において、可決されたことが報告された。

本件に関する主な質疑は以下の通りである。

・投票総数が2票足りないが、退任の2名と重なっているのではないか

→投票時、人事で報告した2名の退任者はまだ退任しておらず、他の委員の方の棄権である。

(5) 【審議】原子燃料サイクル専門部会書面投票結果「浅地中ピット処分の安全評価手法」についてのコメント対応

LLW 処分安全評価分科会の中居委員より FTC51-3-2~4 に基づき「浅地中ピット処分の安全評価手法」書面投票時のコメント対応について説明があった。

また、同分科会の山本幹事より FTC51-3-5 に基づきピット処分、トレンチ処分等の今後の方針の説明があった。

本件に関する主な質疑は以下の通りである。

(書面投票時のコメント対応について)

- ・図 7.1 で、ガスシナリオは文章のみの説明で図中の記載がないが、それでよいのか。
- ⇒被ばく経路として大気を考える必要はあるが、図 7.1 は汚染源の移行経路を説明する図なので、図中に記載していない。

(今後の方針に関する提案について)

- ・ピット処分がここまで完成した時点で、合体化などのために制定を遅らせるのはどうか。
- ⇒ピット処分は制定に向けた作業を進め、その上で可能ならばなんらかの方法で、完成したピット処分標準に、トレンチ処分にも適用できるような工夫を加えたいと考えている。
- ・ピットとトレンチでは、重複部分が多くあると思われるので、適宜、ピット処分標準を参照するような形で、別にトレンチ処分標準を作る方法もあるのではないか。
- ⇒より簡単な方法として、ピット処分標準のどこかにトレンチ処分にも準用できることを書き、トレンチ処分の評価事例等の差分を入れた附属書を付加する方法もあり、これが可能なら合体化もあり得ると考えている。現時点で編集の方法は確定できないが、ピット処分標準の制定作業を進め、その間に可能な方法を検討し、逐次提案をしていきたい。
- ・合体化できる方法が見つかったとしても、ピット処分標準の発行までには間に合わないのではないか。
- ⇒ピット処分標準の部分は、これから標準委員会での書面投票、公衆審査、制定決議、転載許諾等の発行手続きという手順で進められるが、どの時点でトレンチ処分の合体化などの案ができるかのタイミングによると思う。
- ・ピット処分について本報告で承認してもらった場合、ピット処分の標準の内容はかえずに、トレンチ処分に対応した追加分に対し、改めて承認を得ることになるのでは。
 - ・これまでの事例で、公衆審査にかけるのを待ってもらったこともあるが、標準の修正内容にもよる。合体したものを発行できるか否かは標準委員会の判断に委ねることになると考える。
 - ・合体化する場合、ピット処分標準の名称は変更する必要がある。
 - ・合体版の発行ができない場合は、完全なトレンチ標準の形態になっていなくても、トレンチ処分にも適用できる旨を示す見解書的なものを発行し、次の標準改定の際に役立てる方法も考えられる。
 - ・ピット処分標準案を標準委員会へ上程する件、トレンチ処分等の改定の作業を分科会で始める件は承認することとし、その改定案等をピット処分標準へ組み入れる方法は、今後の検討事項とすることで、採決をとることとしたい。
- ⇒採決の結果、全員の賛成で承認された。

(6) 【報告】輸送容器に関する保安院コメント対応の状況報告

輸送容器分科会 溝渕常時参加者より FTC51-5 に基づき保安院コメント対応の状況報告があった。本件は既に原子燃料サイクル専門部会で承認された標準改正案に対する標準委員会での対応であることが確認され、標準本文変更案は編集上の変更であり審議事項に該当しないこと、及び、次回の標準委員会において当該対応状況報告が行われることに対する異議はなかった。

本件に関する主な質疑は以下の通りである。

- g) 遮蔽性能検査 5) 特記事項の「線源による透過試験を実施しなくても確認できる遮蔽体」の後ろに具体的な例示をする方が良いのではないのか？

→輸送容器分科会委員に確認し、例示すべき材料を記載する方向で検討する。

(7) 【報告】原子燃料サイクル専門部会 分科会活動状況

事務局より FTC51-6 に基づき原子燃料サイクル専門部会 分科会活動状況の報告があった。

(8) 【報告】福島除染土壌の仮置き場の安全確保について

福島第一原子力発電所事故に係る「原子力安全」調査専門委員会のクリーンアップ分科会活動について、日本原子力技術協会の吉原氏より FTC51-4 に基づき、除染で発生する除去土壌の仮置き場の安全性に係る Q & A 集の報告がなされた。主な質疑は以下のとおりである。

・今回は除染や仮置き場の報告がなされたが、原子力学会として福島の修復を全体的に支援する組織というか枠組み的なものは、現在すでにあるのか？

⇒ 全体的な支援の枠組みはまだできていないと思う。クリーンアップ分科会では、今回報告の仮置き場以外にも原位置（田圃）での除染試験を指導、協力するような活動をしている。

・他の専門部会では、例えば津波 P S A のように福島事故に関連した標準策定の動きがあるが、今回報告のテーマについては、標準化を図るようなニーズはあるのか。

⇒ 福島の除染や仮置きは、今回の事故に由来する福島固有のテーマであり、普遍的なものではなく学会標準にはなじまないと思われる。また、環境省ガイドラインと二重規制になる懸念もあることから標準化は行わないが、除染現場で有効に活用されればよいと思う。

・市町村で実施される除染に係るデータは、今後の中間貯蔵などを検討する上で重要なデータベースになると思うが、それらをどこかで整理し取り纏めていく動きはあるのか。

クリーンアップ分科会では、分科会が実施したものはデータベース化し、HP 掲載等も行っているが、市町村単位で実施される除染データの集約は今後の重要な課題であり、クリーンアップ分科会としても、データの収集・取りまとめなどに協力する必要があると思う。

6. その他

今回は各委員にアンケートを取り、出席者の多い日時を選定する。

以上